

消化器内科に通院中の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 膵体尾部切除後の術後膵液瘻に対する内視鏡および経皮的治療の成績に関する研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者名・所属] 栗谷 将城（光学医療診療部／消化器内科・助教）

[研究代表機関名・研究代表者名・所属] 同上

[共同研究機関名・研究責任者名]

1. 北海道大学病院	光学医療診療部/消化器内科	助教	栗谷 将城
2. 北海道大学病院	消化器外科 II	教授	平野 聡
3. 手稲溪仁会病院	消化器内科	医長	高橋 邦幸
4. 札幌医科大学	消化器内科	助教	本谷 雅代
5. 札幌医科大学	腫瘍内科	助教	吉田 真誠
6. 札幌医科大学	消化器総合乳腺内分泌外科	准教授	木村 康利
7. 勤医協中央病院	消化器外科	医長	吉田 信

[研究の目的] 膵体尾部癌に対する術前 EUS-FNA を施行した症例に対して、多施設のデータを集積し、その術後経過への影響を明らかにすること。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

上記研究機関に通院または入院歴があり、2012 年 1 月～2017 年 9 月の間に膵体尾部切除術を施行した膵疾患症例の内、術後膵液瘻を発症した方。

○利用するカルテ情報

①年齢，性別，診断名

②膵液瘻による貯留物の CT 画像水平断における最大径（mm）

③内視鏡治療および経皮的治療の内訳（穿刺部位，手技の成否，治療の成否，留置ステントの径・長さ，留置チューブの径，治療期間，ステント/チューブ抜去日・逸脱日，

偶発症[早期 2 週以内, 晩期 2 週以降])

④病理学的事項 (T: 腫瘍進展, N: リンパ節転移, M: 遠隔転移分類、病期)

この研究は、胆管狭窄の患者さんの内視鏡治療を行っている上記 4 施設で形成される 7 つの研究グループで実施します。上記のカルテ情報は、成績の解析のために、北海道大学病院消化器内科に匿名化を行った資料として電子的配信で送付します。

[研究実施期間] 実施許可日～2020年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院 光学医療診療部/ 消化器内科

担当医師 栗谷 将城

電話 011-716-1161 FAX 011-706-7867